

# 縦割りの「欠陥」が裾野広げた

日本の開発援助とは何か

探しの漂流が始まる。

を問い合わせ、良質な思考の

日本の開発援助行政が外

書が現れた。本書はアマル

務省など多くの省庁に分散

ティア・センの思想を踏ま

する「欠陥」のおかげで、

え、途上国の「不足」ではな

ODA(政府の途上国援助)

く、彼らが「もつているも

の裾野が広がり、多分野で

の「に着目してそれを伸ば

すアプローチを重視する。

その上で、明治以降の日本

に、分散型ゆえ民間企業が

の経済発展や戦後の経済成

開発援助に参入しやすく、

長の経験が、日本の開発援

助の指摘は興味深い。さら

に、明治以来の日本

の援助人材の育成が進んだと

の理理念と実践にどのように

援助の指摘は興味深い。さら

に影響を与えたかを明らか

に、分散型ゆえ民間企業が

にする。日本こそ、欧米と異

に、分散型ゆえ民間企業が

なって、まさに「あるもの

開発援助に参入しやすく、

を伸ばす」開発援助政策を

彼らを巻き込んで日本の力

と、まさに「あるもの

が底上げされた。

と、まさに「あるもの

が底上げされた。

を伸ばす」開発援助政策を

彼らを巻き込んで日本の力

と、まさに「あるもの

が底上げされた。

## 野蛮から生存の開発論 越境する援助のデザイン

佐藤 仁(著)

ミネルヴァ書房 3240円



さとう・じん 68年生まれ。東京大学東洋文化研究所教授。『「持たざる国」の資源論』『稀少資源のポリティクス』。

評・諸富 徹

京都大学教授・経済学